

# アカイカ 北太平洋

Neon Flying Squid *Ommastrephes bartramii*



## 管理・関係機関

北太平洋漁業委員会 (NPFC)

## 生物学的特性

- 最大体長・体重：外套長約 60 cm・体重約 6 kg
- 寿命：1 歳
- 性成熟年齢：約 10 か月
- 産卵期・産卵場：秋～春、南西諸島～小笠原諸島、ハワイ諸島
- 索餌期・索餌場：春～冬、亜寒帯境界～移行領域
- 食性：橈脚類、魚類（ハダカイワシ類中心）、頭足類、甲殻類
- 捕食者：メカジキ等

## 利用・用途

てんぷらやフライなどの惣菜、燻製したものやスライスカットした珍味等の加工原料

## 漁業の特徴

1970 年代中頃から我が国のいか釣り漁業が漁獲を開始した。1970 年代後半には我が国の流し網漁業も漁獲を開始し、1979 年からは東経 170 度以西を釣り漁場、以東を流し網漁場とする規制が実施された。1980 年代にはいか釣り漁業は縮小し、流し網漁業が重要となり、韓国と台湾も参入した。しかし、公海域における流し網漁業が国連決議により 1992 年末をもって操業停止となったことを受けて、我が国のいか釣り漁業が近海で復活し、その後、東経 170 度以東にも出漁するようになった。また、この頃、中国のいか釣り漁船も多く操業するようになった。2000 年頃から再び我が国のアカイカを対象としたいか釣り漁業は縮小し、数百隻と言われる中国漁船を中心に台湾及び韓国いか釣り漁船が東経 170 度の沖合から日本近海にかけて操業してきた。最近年では、我が国以外では主に中国のいか釣り漁船が我が国 200 海里付近の公海で操業している。我が国のいか釣りの漁期は、日本近海における冬春生まれ群（西部系群）を対象とする冬漁（主漁期 1～3 月）と、北太平洋中央部における大型の秋生まれ群を対象とした夏漁（5～9 月）に分けられる。

## 漁獲の動向

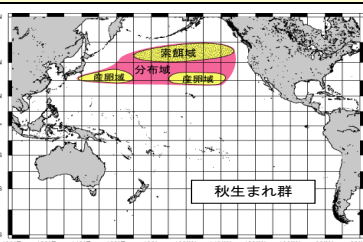
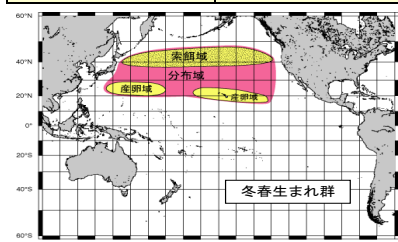
1970～1990 年代初めには主に流し網により漁獲され、毎年の漁獲量は、漁業国の総計では 20 万～35 万トン、我が国では 5 万～22 万トンであった。公海流し網操業停止後の 1994 年以降ではいか釣りにより漁獲されている。流し網操業停止後の我が国のいか釣り漁獲量は 1995 年から 1999 年にかけて 4 万～8 万トン前後であったが、2000 年代には平均で 1.5 万トン前後に減少し、近年は、夏漁と冬漁を合わせて 1.0 万トンに満たない水準である。これは漁船の隻数の減少の影響が大きい。冬漁は、近年は不漁が続き、2015 年、2016 年漁期と 2 年連続でほとんど水揚げがない状態であった。2017～2018 年は兼業するスルメイカの不振の影響もあり 2 年連続で 500 トン以上の水揚げがあったが、2019 年以降は再び低調な水揚げとなっている。一方、夏漁は、2018 年の漁獲量は 4,928 トンから 2019 年は 6,777 トン、2020 年は 7,520 トンと、漁獲量は増加傾向にあった。2021 年は操業日数が半減したことで漁獲量は 2020 年の半分程度にとどまった。中国の漁獲量は、1990 年代後半に増加して 1999 年にピーク（約 13 万トン）を記録し、2000 年代まで 8 万～13 万トン程度で推移した。2010 年代は減少傾向にあり、2017 年は 3.9 万トン、2018 年は 2.0 万トン、2019 年は 1.6 万トンと毎年過去最低を記録しており、2020 年は 1.0 万トンと減少傾向が続いている。

## 資源状態

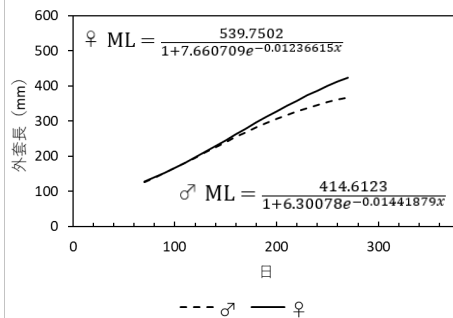
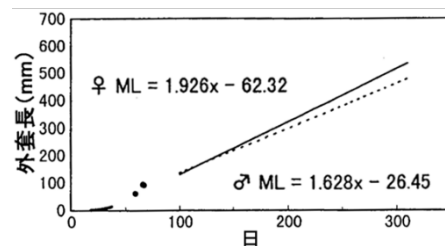
秋生まれ群を対象とした調査では、2001～2021 年の北太平洋中央部海域（東経 175.5 度ラインを主とする）での流し網調査 CPUE の平均は 0.97 尾／反であり、2021 年は 0.72 尾／反と 1999 年以降で最も高値となった 2020 年の 3.41 尾／反を大きく下回り、平均以下となった。2021 年の流し網調査 CPUE を 2001～2020 年における最低値（0.06 尾／反；2011 年）と最高値（3.41 尾／反；2020 年）の差を 3 等分し、この間の資源水準を低位、中位、高位に区分した基準で判断すると資源水準は低位に相当する。冬春生まれ群を対象とした調査では、2006～2020 年の北太平洋西部海域（東経 144・155 度）での流し網調査 CPUE の平均は 4.53 尾／反であり、2021 年は 1.34 尾／反と平均値を大きく下回っており、2013 年以降平均値以下の年が続いている。流し網調査 CPUE の最低値（1.22 尾／反；2020 年）と最高値（15.99 尾／反；2007 年）の差を 3 等分し、低位、中位、高位に区分分けした基準で判断すると、2013 年以降の資源水準は低位と判断される状態が続いている。

管理方策	
北太平洋におけるアカイカの資源単位としての4系群が提案されている。しかし、資源管理上は極めて複雑であることから、NPFCの科学委員会においては東経170度を境にして東西で統計データの集計が進められている。	

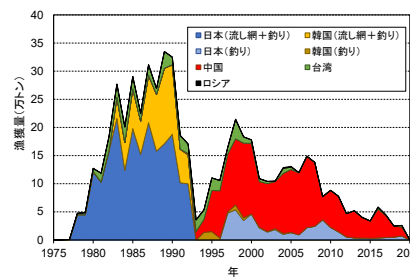
アカイカ（北太平洋）の資源の現況（要約表）	
資源水準	低位（秋生まれ群）・低位（冬春生まれ西部系群）
資源動向	減少（秋生まれ群）・横ばい（冬春生まれ西部系群）
世界の漁獲量（最近5年間）	1.8万～5.8万トン 最近（2020）年：1.8万トン 平均：3.4万トン（2016～2020年）
我が国の漁獲量（最近5年間）	0.3万～0.7万トン 最近（2020）年：0.7万トン 平均：0.5万トン（2016～2020年）
管理目標	未設定
資源評価の方法	未確立
資源の状態	・秋生まれ群：流し網調査のCPUEをもとにすると資源水準は低位に相当、漁獲動向は増加傾向にある。 ・冬春生まれ群：流し網調査のCPUEをもとにすると資源水準は低位に相当。
管理措置	公海大規模流し網禁止（国連決議）
最新の資源評価年	なし
次回の資源評価年	未定



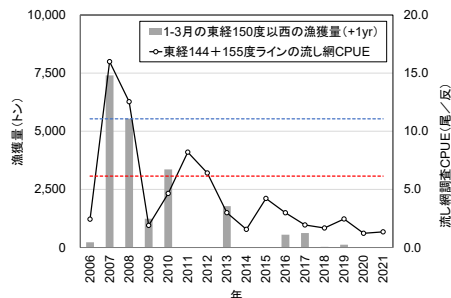
アカイカ冬春生まれ群と秋生まれ群の分布域（漁場は索餌域に形成される）



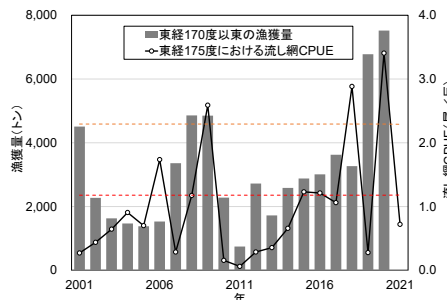
アカイカの成長曲線  
（上）秋生まれ群の成長、（下）冬春生まれ群の成長



北西太平洋海域のアカイカまたはイカ類\*の漁獲量（1975～2020年）  
各国・地域の1975～1994年の漁獲量はFAO統計、1995年以降は各国・地域ともにNPFC報告資料をもとに作成。  
\*FAO統計資料は北西太平洋海域のVarious squids及びCommon squidの漁獲量を一部含む。



夏季アカイカ流し網調査における流し網調査CPUEと東経150度以西海域の1～3月のアカイカ冬春生まれ群の我が国の漁獲量の推移（2006～2020年、漁獲量は漁獲成績報告による）  
破線は1999～2021年の調査流し網のCPUEの最低値と最高値の差を3等分した水準を示している。赤色破線以下は低位、青色破線以上は高位、赤色破線と青色破線の間を中位と判断。なお、流し網調査は6～8月、我が国の漁獲は1～3月と年が異なっているため、流し網調査の年に棒グラフを合わせている（+1yr）。



夏季アカイカ流し網調査における流し網調査CPUEと東経170度以東のアカイカ秋生まれ群の我が国の漁獲量の推移（2001～2020年、漁獲量は漁獲成績報告による）  
破線は2001～2021年の調査流し網のCPUEの最低値と最高値の差を3等分した水準を示している。赤色破線以下は低位、青色破線以上は高位、赤色破線と青色破線の間を中位と判断。